

⑥-1 大林寺

①歴史 鎌倉建長寺の末寺で住持が文禄の役で戦死し廃寺、寛永3年(1626)本堂と地藏堂(六地藏：地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天道)が建てられたという※2※3。

②本尊 地藏菩薩(通称：お地藏様)

③境内に脇八十八の称徳碑＝賀茂郡乃美尾(黒瀬)割庄屋脇万左衛門の子。文政12年(1829)～嘉永5年(1852)土与丸の庄屋。土与丸村が水害で莫大な負債を抱えていたが、これを整理して村民の苦痛を除いた※3。

⑥-2 吉土実公園

①吉土実小学校跡 明治5年「学制」施行。明治6年(1873)観国舎(助実の教正寺)と振起館(土与丸の大林寺)に設け簡易小学校を設立。明治25年(1892)吉土実小学校設立。昭和18年(1943)吉土実国民学校廃校、広島陸軍被服支廠縫工部が移転疎開。昭和20年(1945)広島高等師範学校附属中学校舎として使用。昭和22年(1947)西条町立吉土実小学校として復帰。昭和34年(1959)西条・吉土実・御藺宇・下見4小学校が統合して西条小学校となる。

②武田精華先生の碑(池田勇人揮毫)明治2年(1869)助実村の生まれ。明治24年(1891)吉土実小学校に赴任、24年にわたり3000人以上の子弟教育に尽力。退職後、朝鮮釜山で書店経営、日朝文化交流に寄与した※3。

⑦ 歌謡坂一里塚

西条町助実 西国街道沿い

①「牛満長者伝説」によれば田植えは助実から始まり歌謡坂は田植唄をここから歌い始めたので地名になったという。

②一里塚 主要な街道に1里(約3.927km)ごとに築かれた塚。榎・松などが植えられ、旅人のための里程標となった。☆東広島市の一里塚 長尾(飯田)⇄時友(寺家)⇄歌謡坂(助実)⇄日向(上三永)※4

⑧ 今宮神社

牛満長者伝説 往昔、西条土与丸ほろろくを行商する男がいた。松子山にさしかかると1匹の牛が瀕死状態なので何日か弁当を食べさせたが牛は死んだ。手を触れると牛は急に壊れて金となりその男は「牛満長者」となり西条盆地の田は殆ど彼のものになった。長者の家にあかすの蔵があり誰もあけてはならなかったが、1人の男がひっそり開けると1枚の焙烙があり、それが見る間に白鳥となり高屋白鳥山の方に飛んで行き、それから長者の没落がはじまったという。その牛がいたところに建てられたのがこの神社といわれている※3。

*現地案内看板があります。

⑨ かが松の碑

西条町土与丸

西国街道沿いに大きな街道松があり参勤交代の大名一ノ

ノ行がここでかごを停めて休んだので「かが松」と呼ぶようになった。昭和18年(1943)枯死したため切り倒された。一枚板は賀茂泉本社邸宅の玄関の門扉や看板で残っている。碑は巨大な街道松あとに立てられたが平成30年(2018)の豪雨災害で流され、現在もとの位置にはない。

⑩ 丸山神社

①(祭神) ほんだわけのみこと品陀和気命(境内神社)森之内神社 祭神 つちのみおやのかみ土ノ御祖神(土地の守護神、土壌の神。稲作の為の神)

②由緒 弘安3年(1280)助実村織田彦四郎祖先彦衛門正俊が、私林に小祠を建てて勧請、後に村人達が社殿を建立して崇敬したと伝える。永享8年(1436)社殿再建の他、修理を行い享保20年(1735)現在の本殿になった。京都丸山より祭神を奉移したので丸山神社と称したという※3。

⑪ 丸山神社古墳群

西側(2号古墳)と東側(3号古墳)に直径10mの小円墳があり、東側(3号古墳)は台風の影響で箱型石棺が露呈・半壊したが遺物は確認出来なかった。1号古墳は全長42.9mの前方後円墳で後円部は2段築成。壺形埴輪が出土した。築造年代は4世紀初頭と思われる県南西部では最古級で、三ツ城第1号古墳(全長92m・後円部は3段築成・築造年代は5世紀前半)以外では最大の前方後円墳※3※5。
*現地に案内看板があります。

⑫ 教正寺

①浄土真宗本願寺派 山号 石仏山

②本尊 阿弥陀如来

③由緒 元々は芳樹山浄福寺と称し天台宗。天文年間(1532～1555)山科本願寺攻めで功績のあった武田伊豆守の二男武田左衛門尉光明(法名は浄願)が真宗に帰依し摂州西成郡野田から安芸西条に移り元々寺家村青谷にあった堂宇を光明坊(後の教善寺)と号して創建した。子の浄円が天正18年(1590)浄土真宗に転宗、創立した※2※3。織部型石灯籠と武田菱紋の入った手水鉢がある。

⑬ 西宮神社

①(祭神) ほんだわけのみこと品陀和気命 ことしろぬしのみこと言代主命(境内神社)紺屋垣内神社 祭神 すさのおのみこと素戔嗚尊

②由緒 延慶3年(1310)賀茂郡小多田村の氏神が焼失し御神像が半焼のまま大鳥と化し女子畑村→福本村→御藺宇村早稲木等を経て恵下山の現在地へお止まりになり御神像は全く灰になっていたが、神威を恐れて村人は社殿を建立、産土神として崇敬したと伝える※2※3。

③芸藩通志に「八幡社二所、助実村恵下森、丸山各一社あり。恵下森の社は西宮八幡と称す。営造の棟札四あり、正治(1199～1201)外読み難し」と出ている※2※3。

〈引用文献〉※1 西条町誌 ※2 広島県の地名 ※3 東広島県の歴史事典 ※4 瀬戸内歴史散歩 ※5 境目・広島県の古墳文化

東西条地区の歴史めぐり



明治22年(1889)

吉行村・**土**与丸村・助**実**村が合併して吉土実村となった。

東西条地区の歴史めぐり

監 修：東広島歴史楽会(有田 篤雄)

発 行：東西条地区住民自治協議会

問合せ：東西条地域センター

東広島市西条土与丸2丁目3-4 TEL 082-421-2023

令和3年2月発行

① 正徳神社

①由緒 正徳元年(1711)9月12日老農夫が荒地を開墾中見つけた石櫃の中に木の神像があり、背後に風神と刻んであったので社を建てて村民が祀り年号の正徳を社名としたと伝える※1。

②(祭神) しなつひこのみこと志那都彦命・しなつひめのみこと志那都姫命＝神産みにおいて伊いざなさきなのみこと・伊いざななみのみこと英諾尊と伊いはるかの尊のみことの間に生まれた神で風の神としている。

② 西楽寺

①山号 福応山

②本尊 阿弥陀如来

③由緒 蓮華山正法院と称し禅宗であったが毛利氏家臣山名八郎が入山し天文15年(1546)本願寺10世証如上人から法名・了興を受け浄土真宗に転宗して福応山西楽寺と改めた※1。

③ 安芸国分寺(跡)

①安芸国分寺 真言宗御室派 山号 金嶽山常光院 広島新四国八十八ヶ所(第三十八番)札所 本尊 薬師如来(市重要文化財)仁王門(市重要文化財)、護摩堂(市重要文化財)や木造薬師如来坐像(県重要文化財)等もある。元の本堂は正願寺本堂(造賀)、銅鐘は正福寺(寺家)に移築されている。

②安芸国分寺の歴史 安芸国では西条に建立。発掘調査により天平尺(物差し)、そして木簡・墨書土器が発見され天平勝宝2年(750)には主要な堂宇が建てられ僧侶によって法会が行われていたこと、全国ではじめて「国師院」と呼ばれる建物跡が確認された。国分寺跡は現在本堂が建っている所が金堂跡で、その北に講堂跡、僧房跡等の伽藍配置も明らかになった。塔跡は西側にあり礎石が残る。

③国史跡 昭和11年に塔跡が指定、昭和57年に主要伽藍部分、平成7年に西側部分が追加指定された。現在「安芸国分寺歴史公園」として整備・解放されている。

④ 石清水八幡神社

大正元年(1912)、吉行字中筋の大萩神社、字尼寺の大歳神社を合祀

①(祭神) ほんだわけのみこと品陀和気命 おうじん応神天皇＝ちゅうあい仲哀天皇とじんぐう神功皇后のひめのおおかみ子 比売大神 おきながたらしひめのみこと息長帯比売命(神功皇后)。

②歴史 安芸国分寺の鎮守社、長和2年(1013)勧請と伝える(芸藩通志)。文政2年(1819)の吉行村差出帳では吉行・土与丸・四日市次郎丸(現在の西条)の氏神とされる。

③旧神輿の中の棟札に「大日本国安芸州東條郡寺町八幡大菩薩神輿也(中略)応永26年(1419)沙弥道性」と記され寺町が東条郷に属したことをうかがわせる※2。

⑤ 伊勢宮神社

社格：石清水八幡神社の摂社

①(祭神) 天照皇太神※1